

令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況 (徳島県)

【調査結果の概要】

1 早期栽培

(1) 田植、出穂及び刈取の状況

田植最盛期は、平年に比べ2日早い4月14日となりました。

出穂最盛期は、平年に比べ1日早い7月13日となりました。

8月15日現在の刈取済面積割合は5%となっています。

(2) 作柄概況

穂数は、田植後の4月の低温等により初期生育が抑制されたため「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期である6月が日照不足であったものの、高温で推移したため「平年並み」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「やや少ない」となりました。

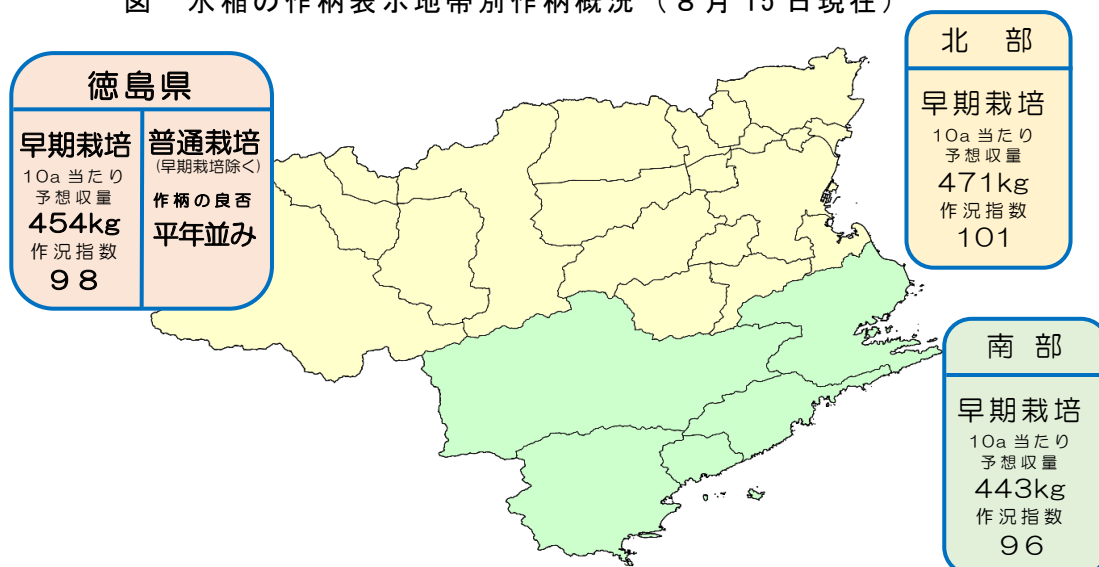
登熟は、全もみ数が少ないことに対する補償作用と8月以降天候に恵まれていることから、「やや良」と見込まれます。

以上のことから、徳島県における早期栽培の10a当たり予想収量は454kg（前年産に比べ2kg減少）と見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅（徳島県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は98（やや不良）と見込まれます。

作柄表示地帯別にみると、10a当たり予想収量は北部が471kg、南部が443kg、作況指数は北部が101（平年並み）、南部が96（やや不良）と見込まれます。

図 水稻の作柄表示地帯別作柄概況（8月15日現在）



普通栽培（早期栽培を除く県全域）の作柄の良否は、気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10a当たり収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものです。

2 普通栽培（早期栽培を除く県全域）

(1) 田植及び出穂の状況

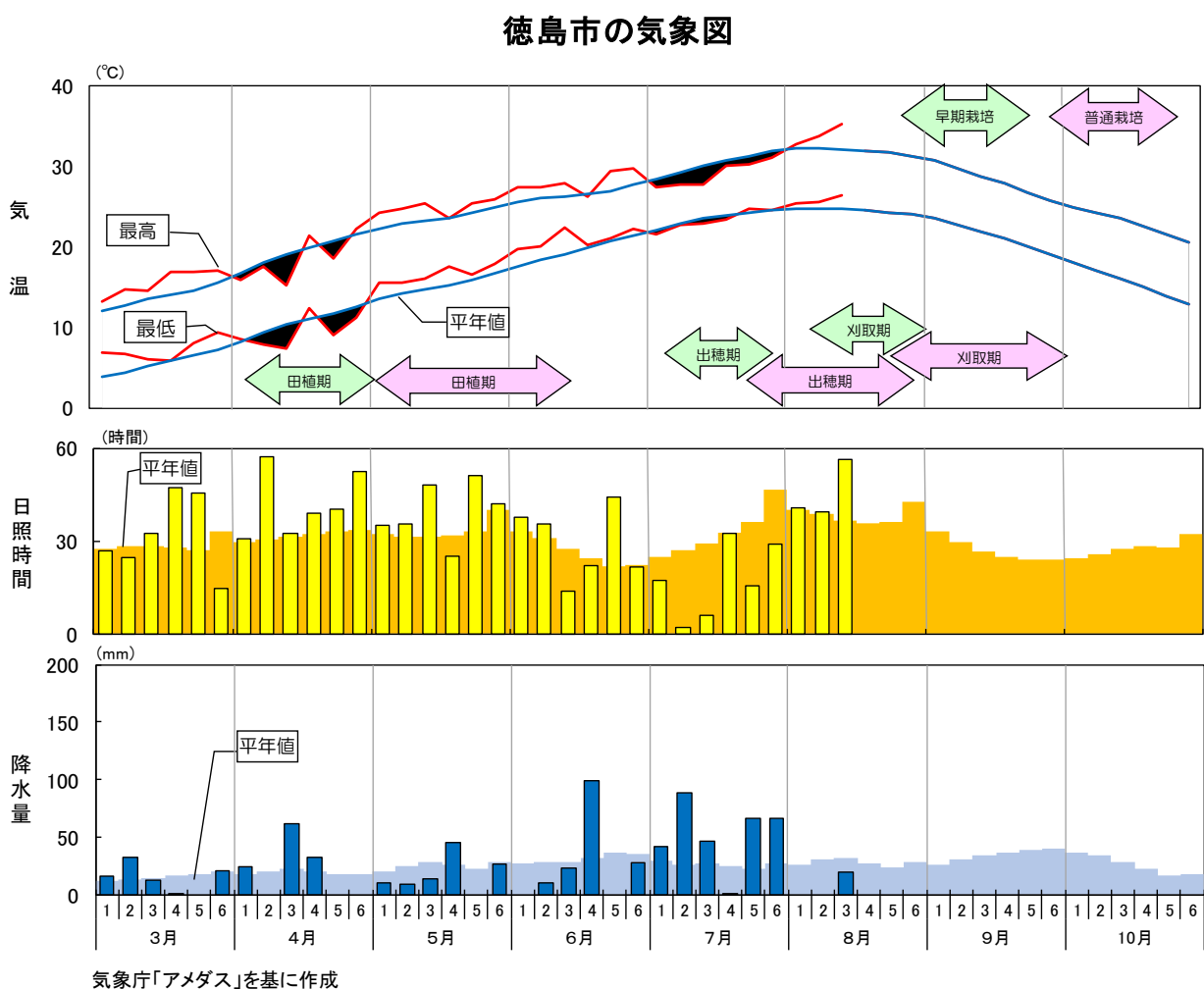
田植最盛期は、平年に比べ2日早い5月21日となりました。

出穂最盛期は、平年並みの7月31日となり、8月15日現在の出穂済面積割合は86%となっています。

(2) 作柄概況

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）から予測した徳島県の水稲の作柄は「平年並み」と見込まれます。

◎半旬別気象図



本資料は、「令和2年産水稲の8月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」の補足資料です。調査の概要は、「令和2年産水稲の8月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」をご覧ください。

お問合せ先

中国四国農政局 徳島県拠点 統計チーム 担当：近藤、半田
 電話：088-625-6990 FAX：088-655-4657